

▲「たうもろこし」心「パイフ」コレモ舶來モノデアルガ先ツたうもろこし(玉蜀黍)ノ果穗ノ心ヲ一時バカリニ切り髓部ヲ中心ニシテ二分位豆(穀粒)ノ根ノ處ヲ殘シテ垂直ニ切り落シ髓部ヲ「パイフ」ノ底ニナル丈殘シテ皆剔出シ乾燥サセタモノニはこね竹デ柄ヲツケル、好事家ハ一ツ試ミテハ如何、はこね竹ノ代リニこしだデモ使ヘバ更ニ妙デアル

▲Calicologist ト云フ言葉ハ餘リ普通ノ字引ニハ見當ラヌ然シ何ニモ新シイ字面デハナイガ此レハ楊柳即チやなぎ類ノ専門研究家ノ事デアル我邦デハ種々ナル植物ヲ研究シツ、アル間ニ時々柳ノ種類ニ出會フテ他ノ植物ト一樣ニ之ヲ研究スル人ハアレドモ尙未ダ所謂「サリコロギスト」ノ資格アルモノハ一人モ見當ラヌ古來歐洲人デハ F. WIMMER ダノ N. J. ANDERSON ダノ G. F. HOFMANN ダノ又ハ F. B. WHITE ナドガ此「サリコロギスト」即チ楊柳學者デアル

▲「フラヴォーン」ト云フ語ハ毎々東京大學理科大學植物學教室ノ柴田桂太博士カラ聞カレルシ又坊間ニテハ「教育畫報」ヤ「高山植物」ヤ講演會ナドデ武田久吉博士ガ時々使用サレタノデ或人カラ其字ヲ聞カレタコトガアル余ハ生理ダノ組織ダノ、方面ニハ陳紛漢ダガ多分「フラヴォーン」ハ Flavone ノ事デアロウト思フ

▲妊婦嘔吐(惡阻、つはり)ノ藥ハ先ツナイト云フテヨイガ筒井醫學博士ハ其著「臨床醫典」ニ「半夏浸」ノ使用ヲ示シテ居ル半夏ハからすびしゃくノ事デアル浸ハ其浸劑デアル、余ノ友人藥劑師清水藤太郎君ノ說ニヨルト甚ダ有効デアルトノ事デアル

## ○津輕ト秋田トノ重要ナル野生蔬菜

自分ハ學者デモ專攻家デモナイ只本州ノ果ノ一隅デ林檎ヲ栽培シ傍ラ植物ニ趣味ヲ持ツ一ノ百姓デアル商賣

青森縣 佐藤耕次郎

ハ直接間接ニ野外植物ニモ親シマネバナラヌノデ其レガ終ニ離ルベカラザル唯一ノ趣味トナツテシマツタ其レニ先年牧野先生カラ科學ノ爲メ地方ノ爲メ又趣味ノ爲メニ其方面ノ學問思想ヲ涵養スルガヨイト申サレタノデ植物趣味ハ此ニ一層刺撃セラレタ其前カラ自分ハ郷里地方ノ野生食用植物ヲ少シ計リ調べテ地方ノ或雜誌ニ一寸掲載シテ見タ其趣意ハ單ニ野生植物ヲ一時ノ食用ニ供スルト云フバカリデハナク或種ハ其レヲ一ノ園藝蔬菜トシテ栽培植物ノ仲間入ヲサセタイ爲メト其レカラ此地方ノ人々ニ名稱ノ訛ツタ此等植物ノ正名ヲ覺エサセタイ爲メデアツタ元來津輕ト秋田トハ奥羽ノ邊陲地デ動植物ノ名モ頗ル訛ツテ居リ又訛ラナクトモ方言ハ雜多デ他地方ノ人々ニハ其何物ダカ一向解ラヌモノガ多イソシテ其等ヲ統一スル爲メ此地方ノ人々ニ眞正ノ和名ヲ是非記憶シテ居テ貰ヒタイノデアル

陸奥ノ津輕ト羽後ノ秋田トノ地方人ガ野外ニ需ムル蔬菜ハ實ニ多ク其第一位ハ農學上ノ所謂葉菜類デ俗ニ言フ青物ノ類デアアル他府縣人ガ見テコンナ雜草ガドウシテ食ハレヤウト思フ草モ此地方デハ重要ナ蔬菜トナツテ市場ニ出サレル之レガ爲メ山ニ青物採リノ數ハ年々殖エ春季ニ於テ青物ト云ヘバ直チニ此野生蔬菜ヲ指ス位デアル其レデ此節ニハ此野生蔬菜ノ爲メ園藝蔬菜ハ壓到サレテ了フ景況デアアル、次ニ其中ニ就テ重ナルモノデ餘リ他府縣人ニ知レ度ラヌ品ヲ數種紹介シテ見ヤウ

## (一) しほ

*Smilax herbacea* L. var. *nipponica* Maxim.

## (ゆり科)

方言ヲそでト云フガ多分しほでノ轉訛デアラウ高サ數尺ニ及ブ多年生ノ蔓草デ比較的陰處ヲ好ムモノデアアル普通山腹ナドノ藪地、山路ノ傍、山林ノ外部ナドノ土質ノ膨軟ナ處ニ良品ヲ得ルノデアアル二尺未滿ノ嫩莖ヲ手折ツテ賣品トスルガ太ク軟カナモノガ尙バル、此草ハ雌雄異株デ花ハ葉腋カラ出タ長梗上ニ繖形花序ヲナシ二十個内外ノ小花ヲ有スル葉ハ互生シ柔軟デ卵形ヲナスガ中ニハ長ミヲ有シテ葉先ノ鋭尖ナルモノモアル何レモ數條ノ縱脈ヲ有スル托葉ハ卷鬚ト化シテ他物ニ纏絡スル食用ニ供スルモノハ其葉形ノ如何ハ敢テ問フ所デナイガ

しほで (縮圖) (牧野富太郎氏ニ據ル)



*Smilax herbacea* L. var. *nipponica* Maxim.

但シ其一變種ナルたち

しほで Var. *Oldhami*

Maxim. (= *S. Oldhami*

Miq.) ハ方言ヲ用そ

て (馬しほでノ意) ト

云ツテ質ハ硬ク莖ハ細

ク且苦味ガアツテ食用

ニ堪エナイ

しほでハ吾地方ニ於テ

最モ珍重サレル青物デ

其味ハまつばうど一名

おらんださじかくし即

チアスバラグスニ類シ

テ更ニ良ク又一種ノ香

ヲ有シ市場ノ價格モ亦

當時ニ於テ第一位ヲ占

ムルノデアル大正六年ノ相場ハ津輕デ十本束ネ一把五錢デアッタ唯産額ノ少ナイノハ遺憾デアル此草ヲ培養シ

テ良品ヲ作リタイト目論ム人モ少クナカッタガ今デハ少數乍ラモ宅地ヤ畑ノ生垣ノ根本ナドニ植付ケテ居ル人

モアル膨軟ナ土質ヲ好ム草ダカラ畑ノ生垣ノ根本ヲ耕起シテ肥培シタナラバ立派ナ蔬菜トモナリ又土地ノ經濟

津輕ト秋田トノ重要ナル野生蔬菜

上甚ダ有益ナモノトモナル況ヤ此レニ軟白法ヲ施スナラバ優ニ園藝作物ヲ凌グニ相違ナイト思フ  
 「食法」 嫩苗ヲ沸湯ニ投ジテ少時間燻デ後適宜ニ切斷シテ専ラ浸物トナスコトわらびナド、同ジイ、又刺身ノ  
 添物ニモ實用スル、又鹽漬トスルコトモアル

(11) かうもりさう *Cacalia furcata* Sieb. et Zucc.

(やぐ科)

方言ヲばんなト云フガ蓋シ盆菜ノ意カ前種ト共ニ昔カラ菜食ニ實用セラレ來タモノデ此レニ青菜ト赤菜ノ二品  
 ガアルガ固ヨリ同種ノモノデ青菜ノ方ガ最モ普通デアアル陰地ヲ好ム多年生草本デ山林内ニ能ク生ズルガ然シ近  
 山ヨリモ深山ニ良品ヲ産シ殊ニ二十和田湖畔ノ森林ニ發生スルモノ、如キハ高サ六尺ニ超エ葉モ多クハ幅ガ一尺  
 餘ニ達スル此草ハふさト同性ノモノデ深山程大形ノモノガ多イ特ニ彼ノふさノ如キハ十和田湖畔ノ山々並ニ八  
 甲田山櫛ヶ峯ノ連山又岩木山アタリニ産スルモノハ傘大ノ葉ヲ有シ別ニ秋田ぶきの名ガ附イテ居ル一體ふさハ  
 全國珍シクナイ草ダガ以上ノ山々ニ産スルモノデ其葉柄ノ孔ニ干鱗ノ三本束ネガ樂ニ入ルモノナドヲ目前ニ出  
 シタラ誰モ其珍奇ナノニ驚クデアラウ此カウもりさうノ如キモアノ様ナ大形ノモノヲ見セタラ何人モビックリ  
 スルニ違ヒナイ、カウもりさうヲ食膳ニ上ボスコトハ普通ノ本ニハ見エナイカラ恐クハ吾地方ノミ之レヲ食フ  
 ノカモ知レナイ尤モ吾地方デアレバコソ普通ニ近山ニモ見ルガ元來ガ所謂高地性ノ植物デアアルカラサウ容易ニ  
 ハ得ラレナイデ從テ日常ノ食物トハ爲シ得ナイノデアアラウ松村博士ノ植物名鑑ニハ其產地トシテ信州ノ駒岳、  
 同八ヶ岳、駿州ノ富士山、加州ノ白山ノ諸高山ガ擧ゲラレタル、カウもりさうノ名ハ其葉形ニヨツテ與ヘラ  
 レタモノデ略ボ三角形ヲナシタ葉ハ蝙蝠ノ飛ブ狀ニ類シテ居ル花ハ秋ニ開キ筒狀花ヲ多數ニ著ケテ餘リ著シク  
 ナイ、此レニ類似シタ草デたふさト云フモノガアツテばんなだまし又ハうそばんなナドノ方言ヲ有スル里人  
 之レヲカウもりさうト間違ヘテ採食シ甚ダシイ腹痛ヲ催ス者年ニ二三人ハ必ズアルトノ事デアアル、カウもりさ  
 うハ需用モ産額モ豊富デ各地カラ產出スルガ栽培シテアルコトハ未ダ見聞シナイ大正六年ノ相場ハ十本束一把

## 一錢位デアツタ

〔食法〕 専ラ浸物トスル是レハ莖部ヲ主トシテ用キ燂デタ莖ヲ一二寸ニ切斷シ更ニソレヲ裂キ割ル、味噌汁トナスニハ嫩葉ノ附着シタ梢ノ部ガ多ク用キラル、殆ンド春時ノ常食品デアル

(11) **ねまがりだけ** *Sasa paniculata* MAKINO ET SHIBATA. (禾本科)

陸奥ノ津輕デ筍ト云ヘバ單ニ此筍ヲ謂フノデアル吾地方ハ竹ノ類少ナク郊外ニ自生スル竹ハ先ヅサ、類デ其レモ僅カ三四種アルニ過ギナイ一旦山ニ入レバ食用ニ供スル筍ヲ生ズルモノ三種アツテ其レガ夥シク繁ル爲メ年々多量ノ産額ガアル其第一ハ即チねまがりだけデアル此レノ繁茂スル藪ハ海拔二千尺内外ノ山地ニ至レバ一帯ニアル其レデ土地ノ農夫等ハ六月ノ央頃插秧ヲ終ヘテ直チニ或ハ單獨デ日歸リニ或ハ團體デ山中ニ小屋ヲ拵ヘ泊リガケデ多量ノ筍ヲ採ッテ來ル其方面ハ津輕デハ八甲田山櫛ヶ峯方面ノ深山又一方ハ岩木山及ビ岩木川上流ノ深山等デアル、筍ハ一尺内外ノモノヲ折り取ルノダガ季節ガ遅レテ筍ガ伸長スルト二三尺ニナツタモノ、梢先キヲ折ッテ來ル筍ノ味ハまうそうちく、はちく等ノ筍ヨリ良好デアル稈ハ高サ數尺ヲ出デ其根本ハ著シク彎曲シテ居ルカラねまがりだけノ名ガアル根本ノ他ハ眞直デ節ガ高クナイカラ様々ノ用途ガアル或ハ竹垣ニ或ハ桶ノ箍或ハ細裂シテ手籠、筑ノ類等ノ細工ニ用キラル、此竹ノ變種ニめくさむ、即チ *Var. stenantha* MAKINO ET SHIBATA. ト云フノガアル多ク近山ニ産シ筍ハ小形ダガ風味ハ却ッテ優リ而カモ春早ク市場ニ出サレルノデ是レ亦能ク人ニ知レ度ツテ居ル然シ産額ハズット少ナイ此ニハさ、だけのこの方言ガアル

〔食法〕 先ヅ籜ヲ剥ギ除キ一二寸ノ長サニ輪切トナシ味噌汁ニ入レテ長時間煮沸シ其レニわかめヲ投ジテ味ヲ附ス之レヲ筍汁ト呼ブノデアアル、又縦ニ細カク切りテ豆腐ヲ入レ油デ煮テけんちんトスル、又水煮ニシタルモノヲ節ヲ切り捨テ、縦切ニナシ置キ酒ト鹽トヲ加味シタ米飯ニ入レ押シ鮭ヲ造ル、其他ノ食法ハ一般ノ筍料理ト同ジコトデアアル、大正六年ノ相場ハ津輕デ百本十錢デアツタ (未完)